2024年3月のてがたんは申し込み制にて実施しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回2024年4月のてがたんは4月13日(土)で、テーマは「てがたん20周年」です。ぜひご参加ください。4月2日(火)の8時30分から電話での申し込みを開始いたします。市民スタッフのみなさま、次回の下見は4月7日(日)です。

3月の観察コースと内容

●コース：鳥の博物館→親水広場→けやき広場→市民農園前→けやき広場

●観察日時と天気：2024年3月9日 (土) 10:00～12:00　晴

●参加人数：10名（大人7名、中学生以下3名）

●市民スタッフ：7名（**竹本周平**・石原直子・伊東茂子・北村章子・小泉伸夫・伴野茂樹・湯瀬一栄）

●博物館友の会：1名（古澤紀元）　●鳥博職員：1名（**小田谷嘉弥**）

観察した生き物の記録

「*」は、下見だけで見られたもの。

【鳥類】
キジ科：キジ*／カモ科：マガモ、カルガモ、コガモ／カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ／ハト科：キジバト／ウ科：カワウ／サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ／クイナ科：ヒクイナ、バン、オオバン／チドリ科：コチドリ*／シギ科：タシギ／カモメ科：セグロカモメ、ユリカモメ／ミサゴ科：ミサゴ*／タカ科：トビ／カワセミ科：カワセミ*／モズ科：モズ／カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス／シジュウカラ科：シジュウカラ(声)／ヒヨドリ科：ヒヨドリ／ウグイス科：ウグイス(声)／エナガ科：エナガ／メジロ科：メジロ／ムクドリ科：ムクドリ／ヒタキ科：ツグミ、ジョウビタキ／スズメ科：スズメ／セキレイ科：ハクセキレイ／アトリ科：カワラヒワ／ホオジロ科：ホオジロ、アオジ、オオジュリン
家禽や外来種：コブハクチョウ(カモ科)、ドバト(ハト科)

【哺乳類】
ハタネズミ（猛禽類のペリット）

【昆虫】
チョウ目：モンシロチョウ、キタテハ、アオイラガ(さなぎ)、オオミノガ(幼虫)／バッタ目：ヒシバッタ／カマキリ目：ハラビロカマキリ(卵)、コカマキリ(卵)／コウチュウ目：ナナホシテントウ、ヒメアカホシテントウ、カメノコハムシの仲間、コガタルリハムシ(成虫・卵)／ハチ目：ニホンミツバチ／カメムシ目：ヨコヅナサシガメ

【そのほかの無脊椎動物】
アメリカザリガニ（食痕）、エビグモの仲間、タニシの仲間

【花】
草の花　オオバコ科：オオイヌノフグリ／シソ科：ホトケノザ、ヒメオドリコソウ／キク科：セイヨウタンポポ、ノボロギク、オニノゲシ、ホソバノチチコグサモドキ(タチチチコグサ)、オオジシバリ／ナデシコ科：オランダミミナグサ／キンポウゲ科：タガラシ、キクザキリュウキンカ(ヒメリュウキンカ)／アブラナ科：タネツケバナ、ナズナ／ヒガンバナ科：ハナニラ／トクサ科：スギナ(ツクシ)／キョウチクトウ科：ツルニチニチソウ
木の花　カバノキ科：ハンノキ／ヤナギ科：シダレヤナギ／ツバキ科：ツバキ／バラ科：カワヅザクラ、オカメザクラ

3月の観察アルバム

今回のテーマは「みんなの『てが宝』をみつけよう」でした。特定の観察対象を設けず、それぞれの大切にしたい自然環境＝「てが宝」を選び、観察会の最後に発表しました。「コガモ」「ヤナギの新芽」「遊歩道」「手賀沼そのもの」など、多様な視点から「てが宝」が選ばれました。

今月の案内人
竹本周平・小田谷嘉弥

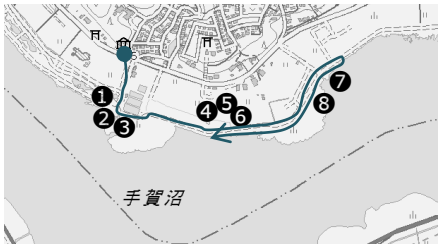
❶今年の花と昨年の実を一緒に枝につけていたハンノキ

❷ヨシ原の中で見られたジョウビタキ

❸南向きの沼の岸から伸びていたツクシ

❹田んぼのあぜ道に咲いていたホトケノザ

歩いたルートと観察した生き物



❺雨の後の田んぼで採食していたツグミ

❻マコモの根を掘り返して食べていたコブハクチョウ

❼鮮やかな新芽が芽吹いていたシダレヤナギ

❽柳の下に落ちていた猛禽類のペリット（中身はハタネズミ）

今月の鳥　カシラダカ（スズメ目ホオジロ科）

カシラダカは、かつては日本国内で最も数の多いホオジロ類のひとつで、冬になると数百羽の群れがあちこちで見られました。しかし、1970年代ごろから急激に減少し、現在では手賀沼周辺でこのような群れを見ることはなくなってしまいました。この減少は日本だけではなく、ユーラシア大陸の全体で起こっており、最近の30年間で75～87%も減少していると推定されています。減少の原因ははっきりと分かっていませんが、繁殖地の森林の伐採や山火事による焼失、渡り中継地での乱獲などが考えられています。この例のように、現在普通に見られる生きものは、未来にも普通でいてくれるとは限りません。身近な自然に目を向け、それぞれの大切なものを見つけることが、生物多様性を守っていくための第一歩になります。

地上で餌を採るカシラダカ